



© Hirofumi Makino

悟りの窓、迷いの窓 / 撮影: 榎野博史 病院長 (京都 源光庵)

🌀 就任あいさつ

那須 保友 副病院長(医科研究担当)

このたび、研究担当の副病院長を拝命いたしました。病院における研究全般について皆様のお役に立てるよう汗をかく覚悟です。本年4月に採択されました厚生労働省の「臨床研究中核病院整備事業」の推進が主な業務となります。中四国における唯一の拠点として、新医療研究開発センターをヘッドクォーターとしてセンター長である榎野病院長の

リーダーシップの下、関連病院を中心としたネットワーク(中央西日本臨床研究コンソーシアム)を構築し、治験・臨床研究の一層の推進を図るとともに体制整備と人材育成を行ってまいります。その一環として学内倫理審査体制を整備し、研究者が仕事をしやすい *HeArtful* な環境を作りあげていきたいと思っております。皆様のご理解とご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



🌀 就任あいさつ

岩崎 達雄 小児麻酔科長

このたび、森田学長、榎野病院長をはじめとする多くの皆様のご高配により、岡山大学病院小児医療センターに小児麻酔科が設置されました。小児麻酔は決して小児病院のみで行なわれる特殊な麻酔ではなく、岡山大学病院においても小児病院に劣らぬ数の麻酔症例や小児心臓麻酔をはじめとする高リスクの麻酔症例があります。しかしながら、特殊ではないとはいえ小児麻酔は成人と比べて周術期合併症のリスクが高いことも事実であり、小児自体の特異性及び小児疾患の

特異性から、小児を対象とする他の診療科の先生方と同様に、成人の麻酔とは異なる知識や技能が要求されます。小児医療センター設置に伴い、最先端の高度な医療を提供する機会が増加し、種々の医療場面での鎮痛・鎮静、高リスクな小児麻酔症例がますます増加すると考えられます。小児麻酔科は小児医療『最後の砦』の一員としてこのニーズに応え、安全かつ優しい麻酔の提供に務めていきたいと考えております。今後ともご指導、ご支援頂きますようお願い申し上げます。



🌀 就任あいさつ

樋之津 史郎 新医療研究開発センター教授

平成25年3月に岡山大学病院 新医療研究開発センターに異動し、10月1日付けで教授に昇任いたしました。私は筑波大学で泌尿器科の研修後、東京大学で生物統計学とデータ管理学を中心に臨床研究の方法論を学びました。前任地の京都大学では大学院生の教育も行いながら一貫して臨床研究、臨床試験に関わってきました。岡山大学病院は

臨床研究中核病院に選定され、関連病院と形成するメガホスピタルの中核として診療・研究を行う事が求められています。これまでも新医療研究開発センターは様々な臨床研究支援を行っております。今後更に当センターの機能を充実させて質の高い臨床研究を実施するために努力する所存でございます。皆様のご協力、ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



就任あいさつ

難波 祐三郎 ジェンダーセンター長

私、このたび岡山大学病院ジェンダーセンター長に就任いたしました。岡山大学病院では性同一性障害：GIDの治療に関して、1998年の準備会発足以来、2001年に第1例目の手術施行、そして本年6月に中央診療施設としてのジェンダーセンターの設置と進めてまいりました。センターではGIDのみならず性分化疾患などのジェンダー関連疾患に対しても、精神科神経科、

産科婦人科、泌尿器科、形成外科等を中心に診療科が連携して包括的に治療しております。このような施設は国内に稀有であり、国内におけるジェンダー治療のモデル施設となっております。昨年は腹腔鏡下S状結腸造脛術を開始しましたが、これからも低侵襲治療の導入を進める所存です。どうぞ今後ともご支援賜りますようお願いいたします。



新看護師長紹介

荻野 智美 看護師長

4月から西病棟5階の看護師長として勤務を始めて半年が経過しました。当病棟は泌尿器科と消化器内科の混合病棟です。入退院が激しく、また急患も非常に多い病棟です。しかしスタッフの皆が「仕方ないですね」と苦笑しながらも受け入れてくれるお陰で何とか病棟のコントロールができています。今でも慣れぬ仕事に戸惑い、周囲へ多大な迷惑をかけてい

ます。(エピソードを連ねるとスペースが全く足りません!) そんな私ではありますが、患者さんの事を考える姿、変化に一喜一憂するスタッフの姿を間近にし、その真摯な想いを支えたいと思っています。それぞれが力を存分に発揮できるように願ひながら、私のできることを一つ一つ積み重ねていきたいと思っています。



TOPICS

臨床研究中核病院キックオフシンポジウムが開催されました

厚生労働省の「臨床研究中核病院」に選定された岡山大学病院は10月5日、鹿田地区でキックオフシンポジウムを開催しました。当日は、厚生労働省医政局の一瀬研究開発振興課長、国立がん研究センターの藤原企画戦略局長をはじめ、中・四国地方の国立大学病院関係者ら約170人が集いました。森田学長の挨拶に始まり、一瀬課長、藤原局長による基調講演、その後の公開シンポジウムでは、各国立大学から臨床研究の課題や取り組み状況の報告があり、シンポジストによる活発な意見交換が行われました。最後に槇野病院長から、各大学が臨床研究の進展に一丸となって取り組み、相互に発展することを祈念した謝辞があり、盛況のうちに終了しました。

なお、岡山大学病院では、臨床研究を表す「Clinical Study」の頭文字「C」を図案化したロゴマークを臨床研究中核病院の選定を機に作成しました。

▲ 臨床研究中核病院事業 ロゴマーク



▲ 参加者に謝辞を述べる槇野病院長

看護部長からヒトコト

保科 英子 看護部長

Fifty's Learning Part2

皆さんは、本学の国際センターが事務局となって毎年「岡山大学英会話研修」が開催されていることをご存じでしょうか。「外国人研究者や外国人留学生の増加等に伴い、業務を円滑に行うための基本的なスキルを養成すること」を目的に、週2回、朝7時から8時まで計15時間のレッスンです。今年は、鹿田地区では6月から7月にかけて行われました。対象は、英会話について中級者（概ねTOEIC600点程度の者）という要件が書いてありましたが、いろいろ英会話レッスンで挫折している万年初級者の私、ちょっとの

早起きでしかも院内で開催されるなんて、こんな絶好の機会はないと、思い切って受けてみました。明らかに私より若く、英語能力の高い6名の研修者とそして、スウェーデン出身の明るく気さくな講師と、恥も外聞もかなぐり捨てて、50の手習い全開でした。落ちこぼれ感を味わいながら。この研修は、TOEICテストを受けることが義務づけられており、久しぶりに緊張して試験を受けてみました。試験勉強が思うように進まず結果は惨敗でしたが、あまり使っていなかった脳の領域が活性化されたに違いないでしょう。



ほしな

医療安全の言葉

医療安全は手指衛生から始まる。 瀬島 淳一さん(歯科技工士)より